

2024年度 法科大学院

第2期入学試験問題

4時限

民事訴訟法・刑事訴訟法

(論文式)

試験時間合計 80分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 必ず〔民事訴訟法〕の解答は〔民事訴訟法〕の解答用紙に、〔刑事訴訟法〕の解答は〔刑事訴訟法〕の解答用紙に、記入してください。また、必ず解答用紙の解答欄に一つずつ記入してください。解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

[民事訴訟法]

債権者Xは、主たる債務者Yに1,000万円を貸し付け、保証人Zが連帯保証債務を負ったとして、Zを被告とする保証債務履行請求訴訟を提起した。この訴訟を知ったYが、Zからの求償権行使を回避するために、主債務の不存在を主張して、Zへの補助参加の申出をしたところ、Xは、Yの補助参加に異議を述べた。

[設問]

- 1 補助参加の意義及び要件を説明した上で、参加の許否について、裁判所はどのような決定をするべきかを論じなさい。
- 2 XとZが、1,000万円の貸金返還請求権の存在を前提として、Zは700万円の限度で保証債務を履行し、Xは残金300万円の保証債務履行請求権を放棄する旨の裁判上の和解をすることができるかを論じなさい。

[刑事訴訟法]

A方で発生した窃盗事件に関し、防犯カメラ映像などから嫌疑が高まったXが逮捕されたが、Xは犯人ではないと否認を続けていた。

その後、現場に遺留された指紋がXの指紋と一致したとの指紋対照結果報告（F報告書）が出たため、司法警察員Kは、Xへの取調べで、「指紋が一致したのだから、あきらめて自白したらどうか」と説得した。そこで、Xは抵抗の気力を失い、自身が犯人であると認め、自白調書が作成され、起訴された。

しかし、その後、上記F報告は資料を取り違えた誤った報告であったことが判明した。

Xの自白調書の証拠能力につき、①司法警察員Kは、取調べの際に、F報告書が誤りであることをすでに知っていながら、それを秘して自白を迫った場合と、②司法警察員Kは、取調べの際には、F報告書は真実であると信じていた場合とに分けて、刑訴法319条1項が定める自白法則の根拠を踏まえて説明しなさい。